

令和3(2021)年度 事業計画書

「誠実で信頼される人に」

Become a Sincere and Reliable Person



学校法人 享栄学園

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部

目 次

令和3（2021）年度

I 中期事業計画Action2021～2025の概要	1
II 予算編成方針	3
III 事業計画書	4
IV 収支予算の概要	6

I 中期事業計画 Action2021～2025 の概要

中期事業計画 Action2021～2025 は、現計画（2016 年度～2020 年度）の評価と改革へのプロセスを踏まえて、目標を達成するために必要な具体的な行動計画を盛り込みます。

役員、評議員、教職員は、アクションプランの重要性を認識し、結果への責任をもって行動します。

■学園のミッション（使命・目的）

建学の精神「誠実で信頼される人に」に基づき、社会の持続的発展に貢献できる何かを自分の力で創造的に考え、新たな社会を牽引する人材を育成する。

■学園のビジョン（目標・あるべき姿）

新たな価値を生み出す魅力ある教育内容を実現し、研究から裏打ちされた高度な専門的学びを提供することによって、アドミッションポリシーに沿った計画定員の入学確保と受験者数の拡充を目指し、本学に関わるすべての人が幸せと感じる大学となる。

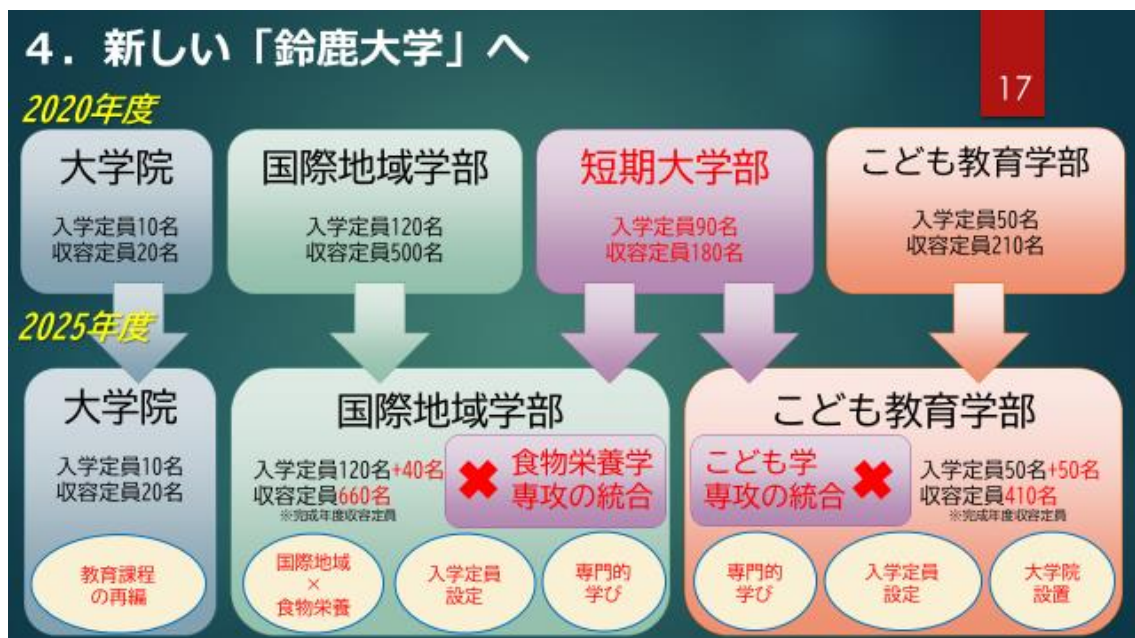
■戦略

- ☆ Society5.0 に貢献する大学を目指す。
- ☆ 高度な専門的学びを充実させ常にカリキュラム改革を行う。
- ☆ 短期大学部の募集停止により、国際地域学部（入学定員 120 名→160 名）とこども教育学部（入学定員 50 名→100 名）の研究・教育の拡充を図る。
- ☆ 「就職」から専門の学びを活かした「創職」を目指す。
- ☆ コストセンターからプロフィットセンターへの変換を目指す。

■中期事業計画 Action2021～2025 のあるべき姿



■新しい「鈴鹿大学」へ



Ⅱ 予算編成方針

本学園は、建学の精神「誠実で信頼される人に」のもと、社会の持続的発展に貢献できる何かを自分の力で創造的に考え、新たな社会を牽引する人材を育成します。

そのためには、新たな価値を生み出す魅力ある教育内容を実現し、研究から裏打ちされた専門的・高度な学びを提供することによって、アドミッションポリシーに沿った計画定員の入学確保と受験者数の拡充を目指し、本学に関わるすべての人が幸せと感じる大大学となる事業に取り組みます。

私立大学を取り巻く環境は、予測不能な勢いで変化しており、少子高齢化による18歳人口のさらなる減少など、財政基盤の脆弱な地方小規模大学にとっては、機動的・戦略的な行動による永続的に維持することができる経営体質への改革が求められています。

令和3(2021)年度は、本学園では、中期事業計画Action2021～2025の初年度であることから、最も重要な1年であると認識し、中期事業計画に掲げたAction Planをもとに、この厳しい財政状況を役員、評議員および教職員全員が責任と結果を求め取り組みます。

令和3(2021)年度の予算編成に当っては、中期事業計画Action2021～2025に基づき、計画された収容定員とその収容定員に応じた予算化を基本原則として編成します。

また、学園の発展に不可欠な戦略的予算については、積極的に予算を確保するとともに、限られた財源を適切かつ有効に配分し、学生確保につながる高度な専門的学びの研究・教育に必要な予算を最優先に確保します。

1. 予算編成上の重点項目

中期事業計画Action2021～2025に掲げる戦略事項による

2. 経営数値目標

中期事業計画Action2021～2025に基づく2021年度財務計画による

Ⅲ 事業計画書

令和3（2021）年度の事業計画は、中期事業計画 Action2021～2025 の初年度に当たります。私立大学を取り巻く環境は、次のように予測不能な勢いで変化しています。

- 少子高齢化による18歳人口のさらなる減少
- 改組転換や新規参入大学による学生確保の大学間競争激化
- 学費依存率が高く、財政基盤の脆弱な地方小規模私立大学の存続危機
- 大学経営の悪化による大学淘汰時代
- 機動的・戦略的行動による永続的に維持することができる経営体質改革

これらの変化に本学園では、高度な専門的学びを充実させるためのカリキュラム改革を常に行い、「就職」から専門の学びを活かした「創職」を目指し、中期事業計画 Action2021～2025 の新しい「鈴鹿大学」を実現するため、以下の事業を実施します。

また、本学園は、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを教職員が一体となって進めるとともに、学生が安全で安心な環境の中で学べる魅力あるキャンパス創りの事業を実施します。

〔1〕 国際地域学部・こども教育学部・短期大学部・大学院

LMS（ラーニングマネジメントシステム）の導入により、学生の学修活動・収集データを分析し、学生個々の状況に応じた個別指導を教員・職員の協働により実施します。

2021 年度新入生からのノートパソコン必携化により、情報テクノロジーを積極的に活用するとともに、学生と情報テクノロジーの協働による新たな付加価値とイノベーション創出を目指し、金融リテラシーや情報リテラシーを学ぶ授業を開講します。

〔2〕 国際地域学部

学生一人ひとりに個別最適化したカリキュラムを編成し、入学と同時に基礎的知識を学ぶとともに学内外でのフィールドワーク、研修、海外留学、少人数ゼミなど実践的体験型学修の事業を行います。

専門の学びと創造すべき価値を高めるため、理論と実践の両面から応用的な知識を修得する履修モデルを策定します。

外国人留学生を対象とした日本語能力向上のための特別プログラムを実施し、日本語能力試験 N2 以上の取得率向上を図ります。

〔3〕 こども教育学部

新しい学習指導要領に従い、「英語教育」「プログラミング教育」の学びを取り入れ、質の高い専門的な教育を提供するための事業を行います。

2021 年度からスタートする小学校教諭課程（一種免許状）において、三重県をはじめ、全国で活躍できる教育者を育てるとともに、教員採用試験合格者率の向上を目指します。

〔4〕 短期大学部

従来からの栄養士、保育士、幼稚園教諭の資格に付加価値を与える学びを展開するための履修モデルを策定し、学生のニーズに応じた教育プログラムを提供する事業を実施します。

2021 年度からスタートするフードマネジメントおよび小学校教諭課程（二種免許状）に関する新たな専門の学びの授業科目を開講し、個別最適化したカリキュラムを編成するとともに資格取得支援の充実を図ります。

〔5〕 キャンパス

学生の学修環境向上、高校生に対するキャンパス PR、高度な専門的学びと連動する施設・設備の改修など、魅力あるキャンパスを実現するため、キャンパスリニューアル事業を実施します。

〔6〕 学生募集

入学者確保のため、県内高等学校の複数回訪問と重点校への強化を行います。知名度向上のため、大学パンフレットの全面改定、駅看板の設置を行い、各種ガイダンスには積極的に参加します。受験生目線での広報活動に転換し、保護者、進路指導教員との連携を強化します。また、SNS など情報テクノロジーにより全国展開し、県外入学者数の増加を図ります。

〔7〕 学園運営

学園運営の健全化に向け、ガバナンス体制の点検・整備を実施するとともに、理事会を通じて学園の諸課題を整理し、改善を実施します。

リスクマネジメント体制の強化を図るため、災害発生時に備えた対応策の検討、コンプライアンス違反への対応・防止体制の確立、サイバーセキュリティ対策などについても検討・実施します。

教職協働による専門スタッフの育成、業務の専門化への対応とともに組織横断的に業務を展開する仕組みを構築します。また、業務の電子化推進等による実効性・効率性の向上を図ります。

Ⅳ 収支予算の概要

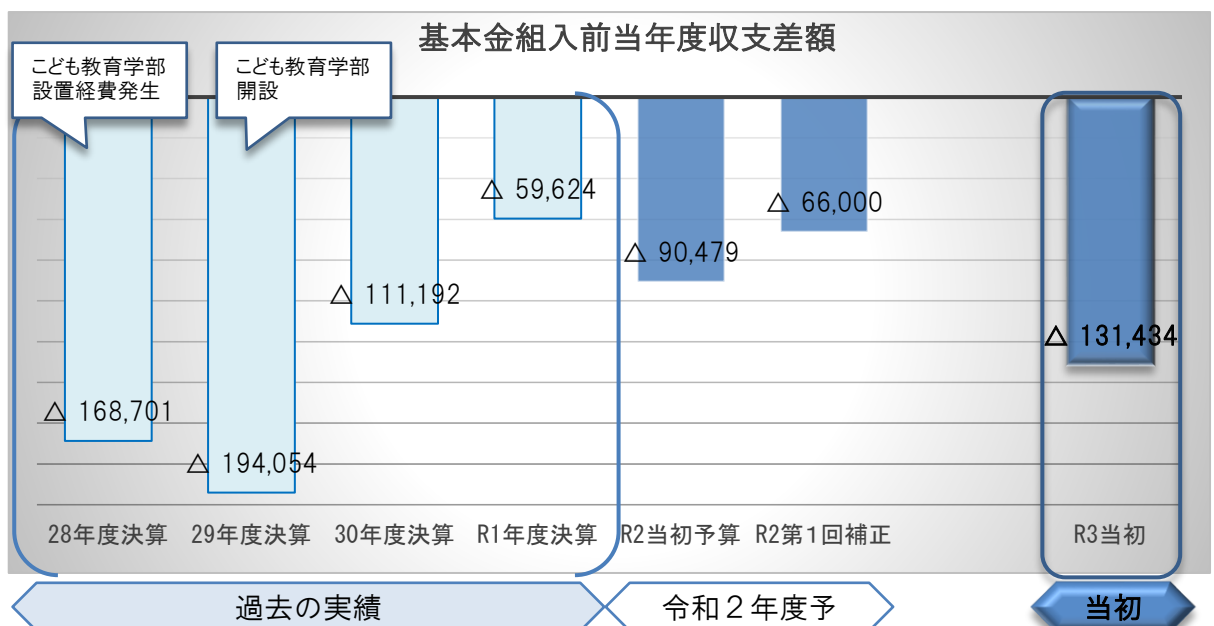
(1) 事業活動収支予算書

教育活動収支差額は△1億10,019千円、教育活動外収支差額は△1,415千円、予備費を含めた経常収支差額は△1億31,434千円となります。

この結果、令和2年度第1回補正予算の前年度繰越収支差額△29億45,908千円に、当年度収支差額△5億63,434千円を合わせた翌年度繰越収支差額は△35億9,342千円となります。

■事業活動収支予算書（令和2年度第1回補正予算対比）（単位：千円）

科 目	令和2年度 補正②(㉔)	令和3年度 当初(㉕)	差異(㉕-㉔)	用語解説
A：教育活動収支差額	△ 100,185	△ 110,019	△ 9,834	本業である教育活動の収支バランスを判断する指標
B：教育活動外収支差額	△ 365	△ 1,415	△ 1,050	
C：経常収支差額（A+B）	△ 100,550	△ 111,434	△ 10,884	経常的な事業活動が安定的かを判断する指標
D：特別収支差額	49,550	0	△ 49,550	
E：予備費	15,000	20,000	5,000	一時的に発生する臨時的収支差額
F：基本金組入前当年度収支差額（C+D-E）	△ 66,000	△ 131,434	△ 65,434	単年度における事業活動全体の収支差額
G：基本金組入額合計	△ 36,069	△ 432,000	△ 395,931	
H：当年度収支差額（F-G）	△ 102,069	△ 563,434	△ 461,365	
I：前年度繰越収支差額	△ 2,843,839	△ 2,945,908	△ 102,069	
J：基本金取崩額	0	0	0	
K：翌年度繰越収支差額（H+I+J）	△ 2,945,908	△ 3,509,342	△ 563,434	



翌年度繰越支払資金は、翌年度に繰り越す支払い資金（現金及びいつでも引き出すことが出来る預貯金）となりますが、その内訳には、翌年度の納付金等収入である前受金収入、当年度の経費で、支払いが翌年度となる期末未払金支出、恒常的に保持すべき4号基本金が含まれています。それらすべてを除いた残高が多ければ、引当金等積み立てとすることが可能となります。

■主な科目の概要

＜事業活動収入の部＞

【教育活動収入】

- ① 学生生徒等納付金の主な内容としては、授業料、入学金、教育充実費、実験実習料となります。

入学者については、令和2年3月現在の見込みとしており、在籍者については、退学、除籍者数を見込んで算出しています。

その結果、令和2年度より17名減のため、△28,020千円の減収となります。

◇学生数

(単位：人)

所 属	第1回補正		当初予算		差異
	学年	計	学年	計	
鈴 鹿 大 学 国際人間科学部	3 年	137	3 年	—	△ 137
	4 年	121	4 年	143	22
	計	258	計	143	△ 115
鈴 鹿 大 学 国際地域学部	1 年	153	1 年	105	△ 48
	2 年	132	2 年	150	18
	3 年	—	3 年	130	130
	計	285	計	385	100
鈴 鹿 大 学 大学院	1 年	10	1 年	10	0
	2 年	10	2 年	13	3
	計	20	計	23	3
鈴 鹿 大 学 こども教育学部	1 年	32	1 年	30	△ 2
	2 年	27	2 年	31	4
	3 年	24	3 年	26	2
	4 年	18	4 年	23	5
	計	101	計	110	9
鈴鹿大学	合計	664	合計	661	△ 3
短 期 大 学 部 生活コミュニケーション学科	1 年	58	1 年	47	△ 11
	2 年	65	2 年	62	△ 3
短期大学部	合計	123	合計	109	△ 14
合 計	総合計	787	総合計	770	△ 17

※募集停止

◇学生生徒等納付金

(単位：千円)

所 属	科 目	第 1 回補正	当初予算	差異
鈴 鹿 大 学 国際人間科学部 大学院	授業料収入	144,660	89,800	△ 54,860
	入学金収入	12,600	3,000	△ 9,600
	実験実習料収入	0	0	0
	教育充実費収入	67,770	36,720	△ 31,050
	計	225,030	129,520	△ 95,510
鈴 鹿 大 学 国際地域学部	授業料収入	187,570	279,485	91,915
	入学金収入	45,300	27,450	△ 17,850
	実験実習料収入	0	0	0
	教育充実費収入	33,210	33,885	675
	計	266,080	340,820	74,740
鈴 鹿 大 学 こども教育学部	授業料収入	82,800	93,235	10,435
	入学金収入	8,500	7,750	△ 750
	実験実習料収入	2,430	4,700	2,270
	教育充実費収入	21,080	13,175	△ 7,905
	計	114,810	118,860	4,050
鈴鹿大学 合 計		605,920	589,200	△ 16,720
短 期 大 学 部 生活コミュニケーション学科	授業料収入	76,060	85,150	9,090
	入学金収入	14,500	11,750	△ 2,750
	実験実習料収入	5,800	4,900	△ 900
	教育充実費収入	16,740	0	△ 16,740
	計	113,100	101,800	△ 11,300
短期大学部 合 計		113,100	101,800	△ 11,300
学生生徒等納付金 総合計		719,020	691,000	△ 28,020

- ② 手数料の主な内容は、入学検定料、試験料、証明手数料、取扱手数料、大学入試センター試験実施手数料となります。

令和3年度は、令和2年度第1回補正予算より△1,715千円の減額となります。

- ③ 寄付金の主な内容は、特別寄付金、一般寄付金、現物寄付金となります。

令和2年度は、令和元年度第2回補正予算より△3,308千円減額となります。

主な減額理由として、令和元年度には、大学25周年記念事業に対する寄付金が含まれているため、その分が減額となります。

- ④ 経常費補助金の主な内容は、国庫補助金、地方公共団体補助金となります。

令和3年度は、次の表のとおり、令和2年度第1回補正予算より△19,380千円の減額となります。

主な減額理由としては、学生数の減少に伴う定員充足率の配点（A配点）がマイナスとなるためです。

◇補助金収入

(単位：千円)

所 属	第 1 回補正	当初予算	差異	H29実績	H30実績	R1実績
国際人間科学部	39,581	33,000	△ 6,581	86,137	78,142	54,246
国際地域学部	43,580	38,000	△ 5,580	—	—	21,017
こども教育学部	0	0	0	13,516	18,718	28,515
短期大学部	39,219	32,000	△ 7,219	69,315	49,447	41,345
合 計	122,380	103,000	△ 19,380	168,968	146,307	145,123

- ⑤ 付随事業収入の主な内容は、公開講座収入、その他の講座収入、受託事業収入となります。

令和3年度は、令和2年度第1回補正予算より△4,527千円の減額となります。

主な減額は、新型コロナに関連し、その他の講座収入を減額しました。

- ⑥ 雑収入の主な内容は、施設設備利用料、退職金財団等交付金、その他雑収入となります。令和3年度は、令和2年度第1回補正予算より1,162千円増額となります。

主な減額理由として、退職者に対する退職金財団等交付金収入によるものです。

【教育活動外収入】

- ⑦ 受取利息・配当金の主な内容は、その他の受取利息・配当金となります。

令和3年度は、令和2年度第1回補正予算より1千円の増額となります。

【特別収入】

- ⑧ 資産売却差額の主な内容は、資産を売却した際の差額となります。

令和3年度は、有価証券等の売却予定がないため、令和2年度第1回補正予算より△49,5501千円の減額となります。

よって、令和3年度当初予算の事業活動収入合計は、8億40,155千円となり、令和2年度第1回補正予算より、△1億4,229千円の減額となります。

- ⑨ 基本金組入額は、△4億32,000千円となり、すべてが第1号基本金によるものです。

■事業活動支出の部

【教育活動支出】

- ① 人件費支出の主な内容は、教員人件費、職員人件費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金となります。

令和3年度は、次の表のとおり、令和2年度第1回補正予算より17,577千円の増額となります。

◇教職員数				(単位：人)		
所 属	教員数			職員数		
	R2	R3	差	R2	R3	差
国際人間科学部	10	8	△2	35	37	2
国際地域学部	11	16	5			
こども教育学部	17	15	△2			
短期大学部	14	14	0			
法人部門	—	—	—			
合 計	52	53	1	35	37	2

※教員数は、
・専任教員
・任期付教員

※職員数は、
・専任職員
・常勤職員

◇人件費支出				(単位：千円)	
所 属	第1回補正	当初予算	差異		
国際人間科学部	118,259	104,110	△ 14,149		
国際地域学部	148,818	170,430	21,612		
こども教育学部	122,386	123,956	1,570		
短期大学部	131,977	139,074	7,097		
法人部門	24,392	25,839	1,447		
合 計	545,832	563,409	17,577		

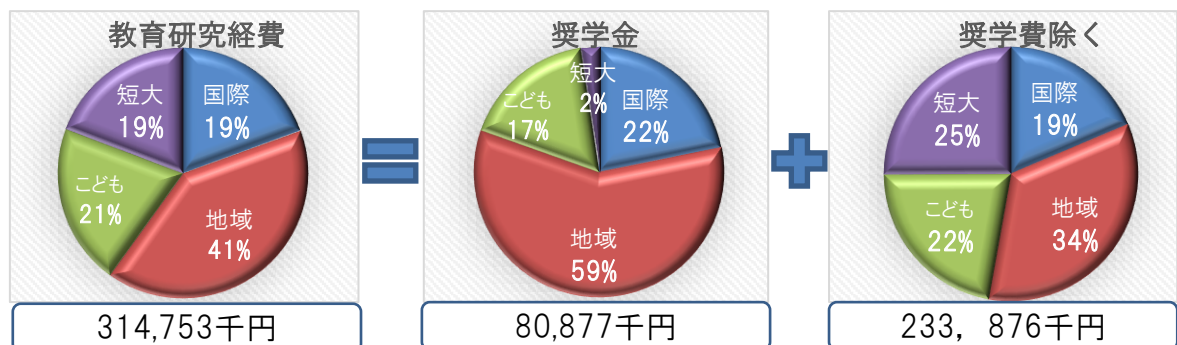
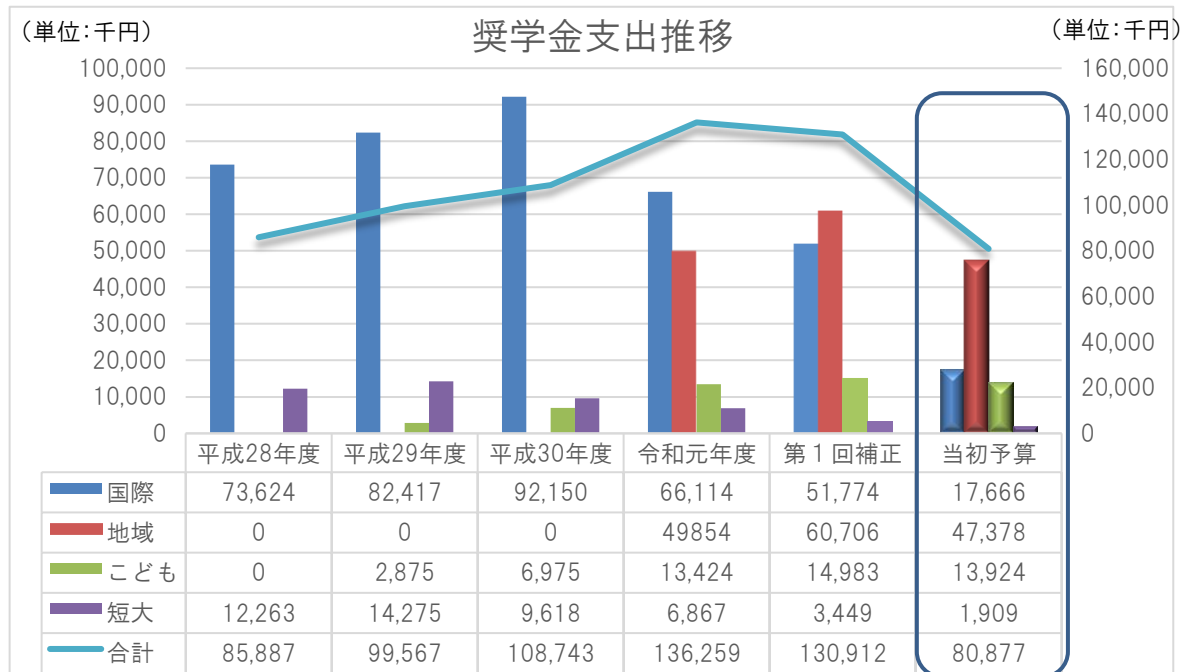
- ② 教育研究経費支出は、教育研究活動などに必要な消耗品費、旅費交通費、光熱水費、委託報酬料、賃借料、会費、奨学費などの支出となります。

令和3年度は、収入の減収に伴い、厳しい予算編成であるが、中期事業計画と当該年度の事業を実施する上で必要な予算を確保することとした。

その結果、令和3年度は、令和2年度第1回補正予算より△66,217千円減額となります。

◇教育研究経費支出				(単位：千円)		<内、奨学費>	
所 属	第1回補正	当初予算	差 異	第1回補正	当初予算	比率	※
国際人間科学部	125,032	61,215	△ 63,817	51,774	17,666	29%	
国際地域学部	112,389	127,261	14,872	60,706	47,378	37%	
こども教育学部	69,067	65,605	△ 3,462	14,983	13,924	21%	
短期大学部	74,467	60,543	△ 13,924	3,449	1,909	3%	
法 人	15	129	114	0	0	0%	
合 計	380,970	314,753	△ 66,217	130,912	80,877	26%	

※比率：教育研究経費に占める奨学費の割合



教育研究経費の各学部、学部等ごとの割合は、上記の左図のとおりとなります。しかし、奨学金（中央図）を除くと、右図のように割合が変化し、純粋に教育および研究に使用する経費の割合は、バランスの悪い状況といえます。

- ③ 管理経費支出は、法人業務および管理運営、募集活動に必要な委託報酬料、広報費、印刷製本費、などの支出となります。

令和3年度は、令和2年度第1回補正予算より3,794千円増額となります。

◇管理経費支出 (単位:千円)

所 属	第1回補正	当初予算	差異
国際人間科学部	8,267	12,421	4,154
国際地域学部	17,188	26,420	9,232
こども教育学部	8,671	9,597	926
短期大学部	18,055	10,572	△ 7,483
法人部門	16,033	12,998	△ 3,035
合 計	68,214	72,008	3,794

【教育活動外支出】

- ④ 借入金等利息が主な内容となります。

令和3年度は、キャンパスリニューアル事業経費の借入金に伴う利息を計上し
令和2年度第1回補正予算より1,051千円増額となります。

【特別収入】

- ⑤ 資産処分差額が主な内容となります。

令和3年度は、特に予定はありません。

よって、事業活動に必要と見込まれる人件費、教育・管理経費等消費的な諸経費の総額である事業活動支出の合計は9億71,589千円となり令和2年度第1回補正予算より、△38,795千円減額となります。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は△131,434千円となり、基本金組入額△4億32,000千円を加算した△5億63,434千円が当年度収支差額となります。

■主な科目の概要

事業活動収支予算書における収支科目と内容的に相違のない科目については、省略とします。

<資金収入の部>

- ① 借入金等収入の主な内容は、キャンパスリニューアル事業経費として、借入金を3億円を計上しました。
- ② 前受金収入の主な内容として、次年度分の納付金等が前年度中に納付された場合の学生生徒等納付金収入となります。
令和2年度第1回補正予算との変更はありません。
- ③ その他の収入の主な内容は、前年度の未収入金（前年度退職者に対する退職財団からの交付金など）、引当特定資産取崩収入となります。
令和2年度第1回補正予算と大きな変更はありません。
- ④ 資金収入調整勘定の主な内容は、今年度末に未収となる見込みの期末未収入金、前年度に資金は受け入れたが、翌年度の収入となる前期末前受金となります。
令和2年度第1回補正予算と大きな変更はありません。

よって、資金収入の合計は15億9,603千円となり、令和2年度第1回補正予算より、1億90,455千円の増額となります。

＜資金支出の部＞

- ① 事業活動支出の教育研究経費および管理経費には、「資金支出」で計上された科目のほか、減価償却額が含まれています。

事業活動支出の教育研究経費に1億500千円、管理経費に10,000千円の減価償却額が含まれており、資金支出は減価償却額を除いた金額となります。

- ② 借入金等返済支出は、短期大学部移転前敷地内正門整備工事の借入金となります。
令和2年度第1回補正予算との変更はありません。

- ③ 施設関係支出は、土地、建物、構築物などの支出となります。
令和3年度は、キャンパスリニューアル事業として、4億円を計上しました。

- ④ 設備関係支出は、備品、図書、車両などの支出となります。
令和3年度は、以下の設備等の購入を予定しています。

・教育研究用機器備品支出	コピー機	5,000千円
・管理用機器備品支出	コピー機	1,000千円
・教育研究用機器備品支出	電子ピアノ	968千円
・教育研究用機器備品支出	新教務システム一式	25,000千円
・図書支出		1,259千円

- ⑤ 資産運用支出の主な内容は、有価証券購入支出となります。
令和3年度は、特に予定はありません。

- ⑥ その他の支出の主な内容は、前期末未払金支払支出、前払金支払支出等となります。
令和2年度第1回補正予算と比較すると、前期末未払金が増額となっています。

- ⑦ 資金支出調整勘定の主な内容は、今年度末に未払いとなる見込みの期末未払金、翌年度に実施するが、当年度に支払いをする前期末前払金となります。
期末未払金には、資産となる物で、リースの対象とする場合に同額を計上します。
令和2年度第1回補正予算と大きな変更はありません。

よって、資金支出の合計は15億9,603千円となり、令和2年度第1回予算より、1億90,455千円の増額となります。

その結果、翌年度に繰り越すことになる翌年度繰越支払資金は、2億7,490千円となり、令和2年度第1回補正予算より△1億90,455千円減額となります。

以 上



学校法人享栄学園
鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
事務局財務課

発行日 : 令和3年3月23日

住 所 : 〒510-0298

三重県鈴鹿市郡山町663-222

T E L : 059-372-3949

F A X : 059-372-3919

e-mail : zaimu@suzuka.ac.jp



学校法人 享栄学園

〒510-0298 三重県鈴鹿市郡山町663-222
TEL : 059-372-3949 / FAX : 059-372-3919
<http://www.kyoeigakuen.net>